

③

③

⑤

④ 青森ねぶた祭

⑥

皆様は、青森県の夏の風物詩である青森ねぶた祭を体験したことがありますか？

青森市民だけではなく、全国から様々な理由でねぶた祭に参加する方が大勢いますが、ねぶたを詳しく知らない、もしくはもっとねぶたのことについて知りたいと思う方の為に、今回は青森のねぶたについて詳しくご紹介します。



⑦ <ねぶたの由来>

青森ねぶた祭は、七夕祭の灯籠流しの変化したものといわれていますが、その起源は定かではありません。

■ねぶたの由来

奈良時代（710年～794年）に中国から渡来した「七夕祭」と、古くから津軽にあった習俗、精霊送り、人形、虫送り等の行事が一体化して、紙と竹、ローソクが普及すると灯籠となり、それが変化して人形、扇ねぶたになったと考えられています。

■ねぶたの原型

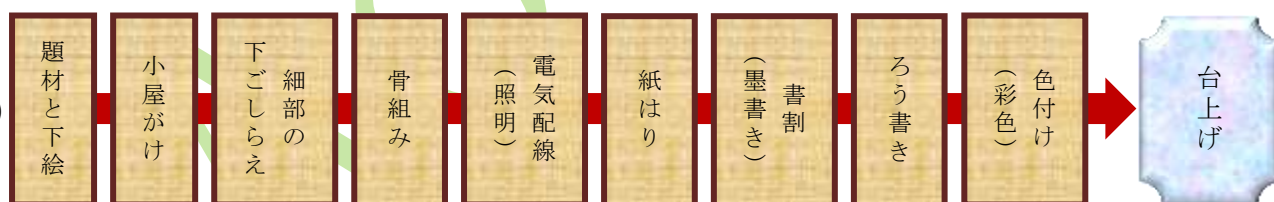
初期のねぶたの形態は「七夕祭」でした。そこに登場する練り物の中心が「ねぶた」と呼ばれる「灯籠」であり、七夕祭は7月7日の夜に穢れ（けがれ）を川や海に流す、禊（みぞぎ）として灯籠を流して無病息災を祈りました。これが「ねぶた流し」と呼ばれる、青森ねぶたの海上運行に表れています。

■ねぶたの名称

「ねぶた（ねぶた・ねふた）」の名称は、東北地方を始め、信越地方「ネンブリ流し」、関東地方「ネブチ流し・ネボケ流し・ネムツタ流し」等の民族語から「ねむりながし」の眠りが「ねぶた」に変化していったものだと考えられています。

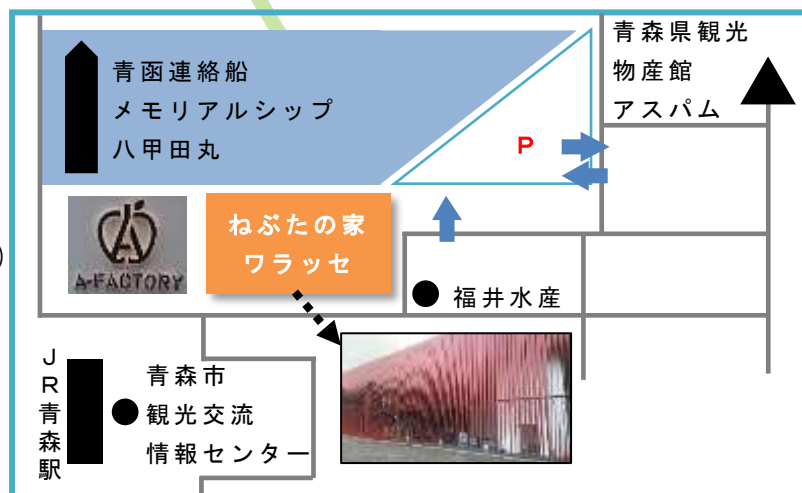
⑧

⑦ <ねぶたができるまで>



⑨

⑩



★ねぶたの家ワラッセに来てね！

<問い合わせ>

所属課室：

青森市経済部観光課

住所：

青森市中央一丁目22-5

電話番号：

017-734-5179

FAX番号：

017-734-5188

⑪

⑬

⑫ 青森県のシンボル

世界各国に「国花」があるように、日本の都道府県でも県花、県木、県民鳥などを指定しています。花、木、鳥のほかに、都道府県の獣や魚を定めている都道府県もあり、また名称は「都道府県の花」、「都道府県の木」、「都道府県の鳥」が一般的であります。それ以外の名称としている都道府県もあります。

今回は、青森県の象徴としてシンボルに指定されている物をご紹介します。

⑦ <青森県のシンボルの特徴>

⑭	シンボル	特徴
県旗	県章	
県花	りんごの花	
県民鳥	白鳥	
県木	ヒバ	
県の魚	ヒラメ	



青森県の名産品

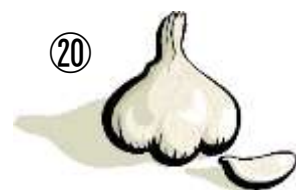
19 ほたて

ほたては、カルシウムやビタミン、鉄分などたくさんの栄養成分が含まれていて、特に貝柱などの主成分として蛋白質はハマグリなどに比べると倍の量が含まれています。それに比べて脂肪量が非常に少なく、あっさりとした旨みの多い貝であるといえるでしょう。

ほたては、帆立、車渠、海扇などと書かれ、その名の起こりは「その殻上の一片は扁くして蓋のごとく、蚌、蛤の輩と同じからず、大なるもの径1～2尺（30～60cm）、数百群行し、口を開いて一の殻は舟のごとく一の殻は帆のごとくにし、風にのって走る。故に帆立蛤と名づく。」という江戸時代に編纂（へんさん）された和漢三才図会という百科事典の一文からとられたといわれます。



19 黒にんにく



黒にんにくの特徴はその果実の色で黒にんにくの名のとおり黒いことです。なぜこのように色が変化するかというと元になる白にんにくが高湿、高温の環境に3～4週間おくことで、熟成して黒くなるのです。

熟成したにんにくは糖度が増え、ドライフルーツに似たような食感に生まれ変わります。そのため食べた瞬間はフルーティーな香りが広がり、食べた後はにんにく臭さがないため多くの人のご愛用していただける食品になっております。しかし、薬を一度に大量に摂取しても効果がないのと同じように1日に1欠片か2欠片が目安になっています。

19 青森りんご「ふじ」

青森市でもっとも有名なりんごである「ふじ」の特徴は袋をかけて育てる「ふじ」と袋をかけずに育てたものを「サンふじ」と呼ぶことです。袋をかけて育てた「ふじ」は赤く色づいて綺麗です、「サンふじ」のほうは糖度などが太陽の光を浴びた分「ふじ」より甘みが勝っています。

名前の由来は公式には青森県藤崎（ふじさき）と富士山にちなんでいるといわれています。さらに発案者の人が女優である山本富士子のファンであることも命名の理由であるといわれています。



21 ●りんごの味早見表●

